

一般社団法人 航空貨物運送協会
編集・発行人 広報委員会

東京都中央区新川1丁目6-1 アステール茅場町ビル4階
電話 (03) 6222-7571 (代) FAX (03) 6222-7577
URL <http://www.jafa.or.jp/>



年頭の辞



一般社団法人 航空貨物運送協会

会長 杉山 千尋

2025年の新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様におかれましては、常日頃は、当協会の活動に、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

IATA統計によれば、世界の航空マーケットでは、貨物輸送量が昨年11月まで16か月連続の対前年プラス傾向が継続し、2024年の航空貨物量は過去最高となる見通しと承知しております。我が国においても、昨年は、航空貨物需要回復の年でした。協会会員の国際貨物の取扱いは、2年余りにわたり対前年マイナス傾向が継続しておりましたが、ようやく昨年4月以降対前年プラスの傾向となり、2023年1年間の混載貨物の輸出は、コロナ以前の水準にはまだ回復していないものの、対前年比7%増の81万トンとなりました。他方、国内航空貨物輸送は、昨年5月以降、対前年プラス傾向で推移しております。世界マーケットでは、2025年、さらに6%の貨物量増加が予想(IATA)される中、わが国発着航空貨物輸送のさらなる活発化や、国内航空の荷動き拡大を強く期待するところです。

航空貨物の分野を巡っては、IATAのOne Record構想、SAF燃料の導入による脱炭素化、成田空港の新整備構想、労働時間規制や人手不足問題に対応する物流の効率化等、引き続き、様々な課題に対処していく必要があります。航空フォワーダー事業にも関わる物流効率化のためのいわゆる改正物流法も、新年度からの施行が予定されています。会員の皆様の創意工夫を凝らした取り組みにより、各種課題を克服し、

安定的なサービスの提供が継続することを確信しております。当協会としても、会員への各種最新情報の提供に努めてまいります。

また、当協会では、業界関係者に対する「教育訓練」を、事業活動の柱の一つとしております。各種教育訓練事業の中、2023年3月以降は、IATAより認証を受けた「CBTAプロバイダー」として危険物講習会を実施しており、昨年は計780名余りの方に受講いただきました。昨年秋には、IATA担当部門の監査を経て、無事、認証の更新も取得することができました。更新を期に、さらに内容の充実を図り、会員企業の皆様のみならず、荷主企業の皆様にも一層受講を推奨し、教育活動の面から、航空の安全輸送確保に取り組んでまいります。

コロナ禍を経て、グローバルサプライチェーン、モノの流れ方が変化しました。加えて、昨今は、自然災害にせよ、気候変動にせよ、世界の社会・経済情勢にせよ、過去に比べても、激しい動きに遭遇する機会が多くなったように感じます。皆様がその動向に強い関心を寄せざるを得ない、米国の新政権もいよいよスタートしました。

事業環境は変われども、会員各社の皆様が、荷主の方々や、エアライン、輸送事業者等の皆様方と協力し、これまでと変わらず、高品質かつ安定的な航空貨物輸送の実現に尽力していただけることを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

国土交通省物流・自動車局長

鶴田 浩久



皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和7年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、能登半島地震や奥能登豪雨をはじめ、様々な自然災害によって各地で大きな被害が発生しました。ここに改めて被災された関係の方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、復旧、支援に関わられた全ての物流・自動車関係の皆様のご尽力に対し、深く敬意を表します。

物流行政は、解決すべき様々な課題に直面しております。国民生活や事業活動に不可欠な移動手段を確保するため、関係省庁と緊密に連携しつつ、物価高対策、働き方改革、継続的な賃上げへの取組みなど、迅速かつ着実に必要な対策を進めてまいります。将来を見据えた物流行政を巡る様々な課題に対応し、利用者や物流関係事業に携わる皆様の期待に応え、安心・安全な交通・物流ネットワークをしっかりと確保できるよう、本省、地方運輸局、沖縄総合事務局、運輸支局等が一体となって取り組んでまいります。

【物流 2024 年問題等の解決に向けた物流革新】

物流は、国民生活や経済活動、地方創生を支える不可欠な社会インフラとして、平時のみならず、災害時においても緊急支援物資の輸送を行う我が国の基幹的な産業であり、そこで働く皆様は「エッセンシャルワーカー」です。そのご尽力とご活躍に改めて敬意を表します。

昨年4月から、物流産業を魅力ある職場とするため、トラックドライバーに時間外労働の上限を定める規制が適用された一方、何も対策を講じなければ物流の停滞を生じかねないという、いわゆる物流の「2024年問題」に直面していました。この問題は、喫緊の課題であると同時に、年々深刻化していく構造的な課題でもあり、継続的に対応していく必要があります。

このため、国土交通省においては、「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」で決定された「物流革新に向けた政策パッケージ」や「2030年度に向けた政府の中長期計画」等に基づき、①物流の効率化、②商慣行の見直し、③荷主・消費者の行動変容を三本柱とした抜本的・総合的な対策を講じてきたところであり、今後も、取組の強化を図ってまいります。

具体的には、物流の効率化に向けて、鉄道、船舶、航空機、ダブル連結トラック等を活用した新たなモーダルシフトや共同輸配送を行う際に必要となる物流拠点の整備や大型コンテナ・シャーシの導入及び実証輸送、物流標準化・データ連携、自動化・機械化機器の導入、ドローン配送の拠点整備、水素・再生エネルギーの充填・充電設備の導入等を

支援してまいります。昨年の通常国会では、契約内容の書面化の義務付けなど適正な運賃収受を図る措置や、荷主・物流事業者への荷待ち・荷役時間の削減や積載率の向上等の取組を義務付ける措置などを盛り込んだ法改正を行いました。本年4月の施行に向けて必要な準備を進めているところであり、改正内容の周知徹底を行ってまいります。さらに、昨年8月から開催している検討会の内容を踏まえ、トラック運送業における多重下請構造の是正に向けた対応策の検討も進めております。

物流を支えるエッセンシャルワーカーであるトラックドライバーの処遇改善や担い手確保は、「待ったなし」の極めて重要な課題です。このため、「物流革新元年」とした2024年に引き続き、2025年が更なる飛躍の年となるよう、政府一丸となって、全力で取り組んでまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

【トラック・物流Gメンによる体制拡充】

物流・自動車局では、物流産業全体の取引適正化を進めるため、昨年11月に、トラックGメンを「トラック・物流Gメン」へ体制を拡充しました。具体的には、倉庫業者からも情報収集を行えるようにするとともに、各都道府県のトラック協会が新たに設ける「Gメン調査員」166名をGメンに追加し、総勢約360名規模への大幅な体制拡充を図ることで、情報収集機能を一層強化しております。

また、11月及び12月を、Gメンによる集中監視月間とし、プッシュ型の情報収集等を積極的に実施し、適正な取引を阻害する疑いのある悪質な荷主等に対する是正指導を実施し、荷主、元請事業者等に対し、トラック事業者が関係法令を遵守して事業を遂行することができるよう荷主等が配慮することの重要性について理解を得るための周知・協力要請等の活動を実施しました。加えて、より一層の取引適正化を図るため、下請代金支払遅延等防止法に係る違反行為の疑いのある荷主等への対応について、公正取引委員会及び中小企業庁との連携を強化していきます。

以上、年頭に当たり、本年の主な物流関連施策について述べさせていただきました。関連事業者の方々、地方自治体やその他関係者の皆様の多様なニーズやご意見をしっかりと把握した上で、関係者の皆様と連携し、昨今の厳しい状況下の課題解決に向けて全力を尽くす所存です。本年も物流行政の推進に対しまして、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

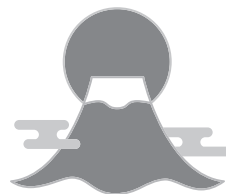
最後になりましたが、この一年、皆様方が各分野において大いにご活躍され、益々のご発展を遂げられますことを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

財務省関税局長

高村 泰夫



令和7年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

一般社団法人航空貨物運送協会及び会員の皆様には、旧年中は関税政策・税関行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年が皆様にとりましてより良い一年となりますよう、心からお祈りいたします。

新年のご挨拶にあたり、財務省関税局・税関の主な取組みについて申し上げます。

越境電子商取引（EC）の拡大による輸入貨物の急増や、経済社会全体のDX（デジタルトランスフォーメーション）の急速な進展、経済安全保障上の脅威の高まりなど、関税局・税関及び貿易業界を取り巻く環境は大きく変化しています。

そのような中であって、関税局・税関が3つの使命である「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の徴収」、「貿易の円滑化」を果たしていくことは、国際物流関係者の利便性向上、日本の国際競争力の強化、日本経済の持続的発展と成長に繋がるものであると考えております。

そのため、国際物流に関わる貴協会及び会員の皆様と課題を共有し、協力して解決に取り組むことが重要であると感じております。

近年の輸入貨物の増加は著しく、不正薬物や知的財産侵害物品の密輸が多数摘発されています。税関における不正薬物の押収量は8年連続で1トンを超え、令和5年の押収量は過去2番目（約2.4トン）を記録しています。この点、貴協会におかれましては、「社会悪物品等密輸防止キャンペーン」を実施いただき、会員企業や顧客荷主への啓蒙活動を積極的に行っていただくなど、日頃から水際対策にご協力いただき、感謝申し上げます。

また、金価格の高騰等を受け、足元で金密輸の摘発件数・押収量も急激に増加しており、旅客が加工した金を身辺等

に隠匿する密輸事例や、海上・航空貨物に巧妙に隠匿する密輸事例など、これまでにない密輸の手口が増加しており、航空貨物では金をICチップに偽造隠匿し大量密輸を試みた事例も確認されています。このような情勢を踏まえ、税関における金密輸の水際取締りをより一層強化しております。

密輸の阻止並びに適正かつ迅速な輸入通関を実現するためには、貴協会及び会員の皆様との緊密な連携が引き続き不可欠です。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

次に、経済活性化のための保税地域の活用についてご紹介いたします。近年の輸入貨物の急増や物流業界の人手不足、港湾・空港分野における国際競争の激化等、保税制度を取り巻く国際物流の動向が大きく変化する中で、保税業務における手続きの簡素化をはじめ、保税制度に対するニーズや課題に関する様々な声が寄せられています。加えて、保税地域におけるアートフェア等の開催をはじめ、制度の新たな活用事例も登場しています。

こうした状況を踏まえ、厳格な水際取締りの水準を維持しつつ、多様なニーズに応え、貿易の円滑化を図るため、昨年6月に「国際物流の動向を踏まえた保税制度のあり方について」をとりまとめました。ぜひご覧いただければと思います。

税関や貿易業界を取り巻く環境は、急速に変化しておりますが、貴協会及び会員の皆様が関税局・税関にとって重要なパートナーであることは不変であり、同じ国際物流に携わる身として、日本経済の発展に貢献していければと考えております。今後も税関の3つの使命を果たすべく、貴協会及び会員の皆様からお寄せいただく声に耳を傾け、関税政策・税関行政を運営してまいります。

最後に、貴協会及び会員の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

Airport Cargo Eye

羽田における貨物取扱状況と諸課題について



東京国際エアカーゴターミナル株式会社 (TIACT)
経営企画室 兼 運営本部運営企画課

課長 三好 佑路

謹んで初春のお慶びを申し上げます。東京国際空港(以下、羽田)国際線地区貨物ターミナルの運営にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

当社は2010年10月の羽田再国際化に合わせて、本邦初の空港PFI事業者として運営を開始し、15年が過ぎました。

羽田の国際貨物上屋2社の国際航空貨物取扱量(除郵便)は、2010年運営開始当初の10万トン台から、その後の就航便の増加とともに堅調な伸長を続け、2018年には60万トンを上回りました。コロナ禍に貨物量は一旦落ち込んだものの、ポストコロナ以降、復便・羽田シフトが進むとともに貨物量は急増し、2024年は過去最高の約70万トンに達する勢いとなっています。

また、欧米線等の長距離路線の充実化によって、コロナ前と比較して仮陸貨物が大きく増加しており、接続便への搭載までの上屋滞貨時間が総じて増加傾向にあります。

施設・設備における課題

貨物取扱量および仮陸貨物の増加に伴い、上屋や生鮮棟、トラックドックなどの施設の狭隘、荷役・保管等設備の不足の課題も顕在化してきています。国内転送トラック便(Road Feeder Service)の需要も高まっており、特に朝、夕などピーク時間帯に貨物が集中化することから、施設・設備の逼迫を助長しています。

短期的な対策として、航空会社等のご理解とご協力を得ながら、上屋の効率的運用に向けた各種施策の取り組みを進めておりますが、中長期的には、上屋再編や機械化による省力化・スペース効率化を図り、上屋処理能力の更なる向上を目指します。

また、設備の中でも貨物運搬用のドーリー不足は、羽田全体の問題となっています。ドーリー不足により、荷役や搬送・搬入への影響が起きており、出発遅延(定時運航の阻害)やトラック待機時間の増加(2024年ドライバー問題)等の様々なオペレーションリスクが想定されます。ドーリー不足は羽田全体の構造的で複合的な問題と考えられ、当社は、航空会社・グランドハンドリング会社、空港関係者と課題解決に向けた協議を開始しております。

人手不足

羽田においても人手不足は深刻な状況にあります。24時間空港であることから、特に夜間帯の人員確保に苦勞しています。採用活動に注力する一方で、社員の働きやすさやエンゲージメント向上にも注力しています。

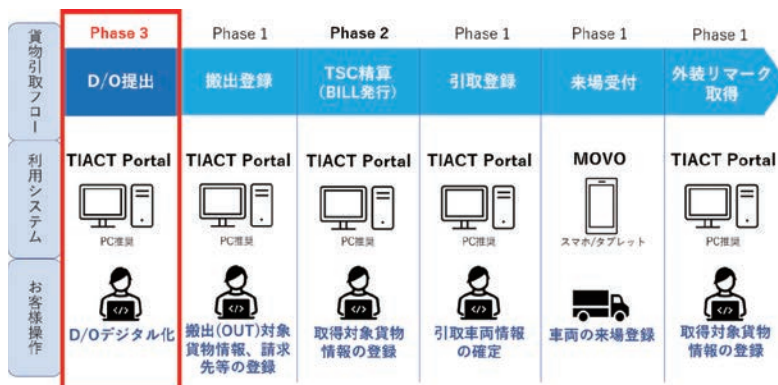
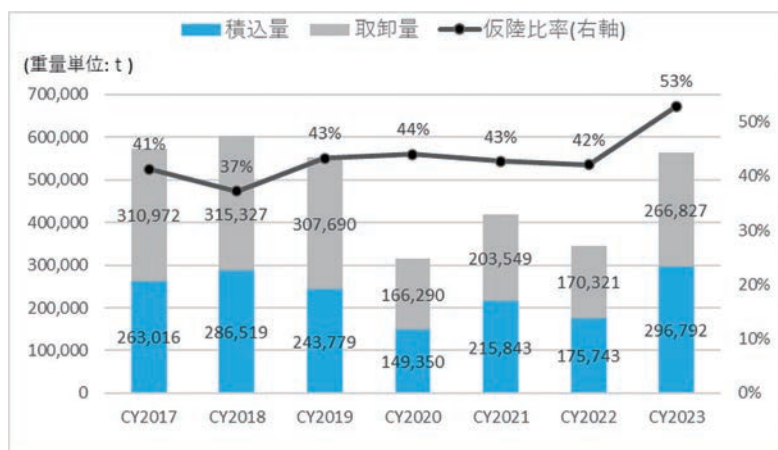
また、当社では、DX導入によるオペレーションの省人化・効率化に向けた取り組みを行っています。2023年10月に輸入貨物の搬出プロセスデジタル化を目的とした「EASYデリバリー」の導入により省人化を図っており、今後はDelivery Order(D/O)のデジタル化等によって、搬出業務の更なる省人化・効率化を図っていきます。

課題解決に向けて

諸課題への対応として、当社では、社員参加型の「TIACTらしさ」プロジェクトにて解決の検討を進めています。施設・設備の拡張、DX導入等15のプロジェクトに分かれ、プロジェクトマネージャーが中心となり、現場感と高いモチベーションを持って課題解決を図っています。

ドーリー不足問題など、当社単独では解決が難しい課題については、空港の関係各社と連携を開始しています。

航空貨物市場は今後更なる成長が見込まれており、貨物取扱量の更なる増加が期待されています。当社は、羽田の国際航空貨物のPFI事業者・首都圏の物流拠点空港として、安定・安全運営体制を構築してまいります。



2024 年秋期国際航空貨物基礎講習会を開催

2024 年 10 月 29 ～ 30 日の間、国際教育委員会主催の秋期国際航空貨物基礎講習会を開催いたしました。(2 日間で同じ内容の講義を 2 回実施)

本年も、春(5 月)と秋(10 月)の 2 回に分け開催し、10 月 29 日は、会場参加 43 名、オンライン参加 147 名。10 月 30 日は、会場参加 22 名、オンライン参加 131 名の合計 343 名の方に受講いただきました。

(参考：2024 年春季講習会 395 名参加)

講義は、下記 7 つのテーマに沿って、JAFA 各委員会・JAFA 講師が担当し、航空保安、AWB 約款について、保険

業務、国際宅配便業務、通関業務および航空危険物取扱いの基礎について学んでいただきました。今年度春から講習メニューに入りました国際宅配便については、委員会企業のご協力をえて一部映像を使つての講義を行い、受講者の方々から非常に分かりやすかったとの評価をいただきました。

終了後には、参加された皆様にアンケートをお願いし、このアンケート結果を参考に、来年度の教育カリキュラムに役立ててまいりたいと考えています。

(国際教育委員会)

国際航空貨物基礎講習会の講義メニューおよび担当講師

	時間	講習メニュー	講師予定	内容	
	9:30 ～	10 分	開講挨拶・ガイダンス		
1	9:40 ～	60 分	航空保安	保安委員会	航空保安についての概論
2	10:50 ～	60 分	AWB、約款について	国際業務委員会	AWB・裏面約款について
11:50 ～ 12:50			昼食（60 分）		
3	12:50 ～	60 分	保険	損保ジャパン	海上損害保険全般
4	14:00 ～	60 分	国際宅配便について	国際宅配便 業務委員会	宅配便と一般混載との違い 越境 EC など
5	15:10 ～	60 分	通関業務（後編）	通関業務委員会	AEO、NACCS などの通関実務
6	16:20 ～	60 分	危険物取扱（後編）	JAFA 講師	危険物取扱い実務 （前期の続編となります）
	17:20 ～	アンケート入力後終了			

IATA 危険物規則書の改訂について

2025 年 1 月 1 日より、航空危険物取扱いは、危険物規則書 (dangerous Goods Regulation-DGR) 66 版に基づいての運用となりました。

今回は 2 年に一度の大幅な改訂になります。

危険物取扱いの際には、必ず DGR66 版で確認をして出荷対応をお願いします。

(国際業務委員会)

IATA 認定資格試験について

2024 年 10 月から 12 月にかけて実施しました IATA 認定資格試験(基礎コース・危険物コース)の結果を報告します。



基礎コース (Cargo Introductory Course)

2024 年 11 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率 (注 1)	90 点以上の高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	欠席 (No show)	不合格者 (failed)
基礎コース	126	102	81.0%	19	18.6%	11	13

注 1：欠席者含む

※引き続き受験者が減少傾向となっております。航空貨物取扱の基礎知識習得のためにも是非基礎コースの資格取得にチャレンジいただくようお願いいたします。

危険物資格取得コース (CBTA)

2024 年 10 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	90 点以上の高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (failed)
7.3 コース イニシャル	16	16	100.0%	14	87.5%	0
7.3 コース リカレント	2	2	100.0%	2	100.0%	0
合計	18	18	100.0%	16	88.9%	0

2024 年 11 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	90 点以上の高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (Failed)
7.1 コース	15	15	100.0%	13	86.7%	0
7.3 コース イニシャル	36	34	94.4%	24	70.6%	2
7.3 コース リカレント	16	16	100.0%	15	93.8%	0
7.2 コース	0	0				0
合計	67	65	97.0%	52	80.0%	2

2024 年 12 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	90 点以上の高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (failed)
7.3 コース イニシャル	11	11	100.0%	5	45.5%	0
7.3 コース リカレント	1	1	100.0%	1	100.0%	0
合計	12	12	100.0%	6	50.0%	0

荷主様の受講が徐々に増えてきており、引き続き航空危険物を取扱う荷主様にもご紹介いただき、航空危険物取扱いの資格取得を推奨いたしますようお願い申し上げます。

資格取得に関する詳細につきましては、当協会 HP「一般社団法人航空貨物運送協会－ディプロマ試験案内」をご覧ください、事務局宛にメール (koyoiku@jafa.or.jp) にてお問合せください。

(国際教育委員会)

あなたの 3 コードは？

～ JAFA 活動を支える皆様に、お仕事、経歴、趣味、ペット、故郷の自慢話、お勧めグルメ、
これからの夢、得意のレア語学、今ハマっていること、推しの人、自由に、3点ほど語っていただきます。～



理事
(株式会社 日新)
珍田 昌一

昨年6月の協会総会 理事会でご承認
いただき理事を務めさせていただいて
おります珍田です。

わたしの3コードは、アジア、ジャズ、航
空貨物です。

サラリーマン歴40年のうち28年余り、
台湾、シンガポール、香港、タイに駐在する
機会を得て23年4月に帰国しました。ど
こも駐在員としては恵まれた環境で本当
にラッキーだったと思います。

台湾では代理店駐在。シンガポールで
はDC立ち上げ、香港では航空貨物担当か
ら責任者、タイでは現法責任者からアジア
責任者と異なる経験ができたことも幸運
でした。

20代の終わりの独身者には台湾での暮
らしは大変魅力的でありましたが、代理店
の中で台湾人のたくましさ圧倒されて
いました。

航空貨物の世界における香港は、私が駐
在を始めた1990年代からすでに最先進国
でありました。

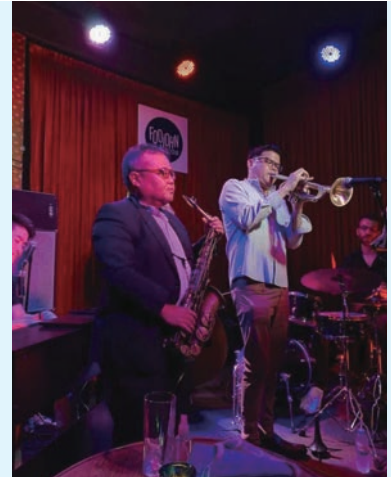
フォワーダー BUILD のULD、ミックス
ロード、数十日以上以上のボリュウムカーゴと
デンシティを相殺できるEQなどの仕組
みは、現在も香港が世界の航空貨物取扱い
ランキングトップの理由のひとつだと思
います。

シンガポールにおいては5年間倉庫勤
務で在庫管理、適正在庫のための受発注に
も関与できたことが幸運でした。

タイにおいては、税関対応やVAT 還付
や法人税還付などでもかなり苦難の道も
ありましたが香港、シンガポールというフ
リーポートの駐在だけでおわるよりは経
験則としては大変よかったと思えます。

そしてタイでそれまで嫌っていたゴルフ
にはまり、毎週の楽しみになるまでに。
これも人生では大きな収穫だったと思
います。

ゴルフより前に学生時代に始めたジャ
ズのサクソスは海外駐在においても交友
関係を広げる上でもストレス解消の上で
も、仕事以外の楽しみでありつづけまし
た。特に香港でプロアマ混合のビッグバ
ンドを立ち上げ5年間活動したことは仕



事以外の人生のハイライトかもしれませ
ん。

わたしも家族も香港やタイの暮らしを
懐かしむこともあります。久しぶりの日
本はやはり便利で美しく整い、移り行く季
節と季節にちなんだ世界一おいしい食物、
それぞれの分野でエキスパートが身近に
いる本社も新鮮で、気持ちを新たに久し
ぶりの日本を楽しんでおります。

まだ慣れぬ身ではございますが、大好
きな航空貨物の世界にもどりJAFAメン
バーの一人として貢献したく何卒よろしく
お願い申し上げます。



国際宅配便業務委員会 委員長
(NX クーリエサービス株式会社)
利渉 勝幸

国際宅配便業務委員会、2024年から
新任委員長として務めさせていただいて
おり、委員・JAFA 事務局の皆さまにご支
援、ご協力を賜りながら会議運営してい
ます。私の3コードは？人・物・サウナ！
でしょうか。現職として国際宅配便の営
業一筋で29年となりますが、人との出会
いによってここまで成長できたと思っ
ています。特にお客様からはいろいろな事
を教わり、時にはお叱りを受けて今があ
ります。営業で一番大切な事は、「約束を
守ること」を教わり、今でも肝に銘じてい
ます。

また、中学の部活から今で
も地元シニアのクラブに所
属しサッカーを続けていま
す。サッカーで出会った仲
間たちは私の人生に影響を
与えた今でもかけがいのな
い大切な友人達です。

物とはいうと、今はバイク
です。若いころからバイク
が好きですぐに免許を取っ
てバイクに乗っていましたが、
大学時代に事故を経験し
てから、遠ざかっていま
した。先輩からの勧めもあ
って45歳の時に大型バイク
の免許を取得し、リターン
ライダーとして今では、春・秋
シーズンにレンタルバイクでツー
リングを楽しんでいます。最後にサウナですが、
最近のサウナブームの波に乗って今では
「サウナー」を自負しています。スタート
は、バイクツーリングのついでに日帰り温
泉(サウナあり)に立ち寄ることからで
したが、今では毎週末に近くのスーパー銭湯
もしくは少し足を延ばしての日帰りサウ
ナを楽しむ週末を送っています。

サウナ・水風呂・外気浴の1セットを3
セット実施して「ととのう」を味わって
います。

最近では温浴施設毎に特徴があり、ロウ



リュウサウナ、アウフグースというタオル
等で熱波を送る熱波師によるイベントな
どがあり飽きることがありません。オロ
ボ(オロナミンCとポカリスエットを割っ
た飲料)なる飲み物も人気です。因みに私
の推しは、サウナの聖地でもある静岡県に
ある「サウナしきじ」です。水風呂が最高
に気持ちいいです。2024年にはサウナ・
スパ健康アドバイザーの資格もとりま
したので、これからもバイクを移動手段と
して出会いとサウナによる五感の世界を求
めて「ととのいたい」と思います。

モントリオール条約に係る責任限度額の改正に伴う 関係約款の改正について(通知)

2024年12月28日より、モントリオール条約に規定される運送人の責任限度額が、SDR22からSDR26に引き上げられました。

これに伴い、今般、国土交通省より、標準国際利用航空運送約款の改正を行った旨の通知がありましたので、お知らせします。また、当協会で作成している国際宅配便運送約款についても、同じく、同責任限度額の改正に伴い、改

正を行いました。両方とも国交省ホームページに掲載されています。

国交省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/seisakutokatsu_freight_mn3_000002.html

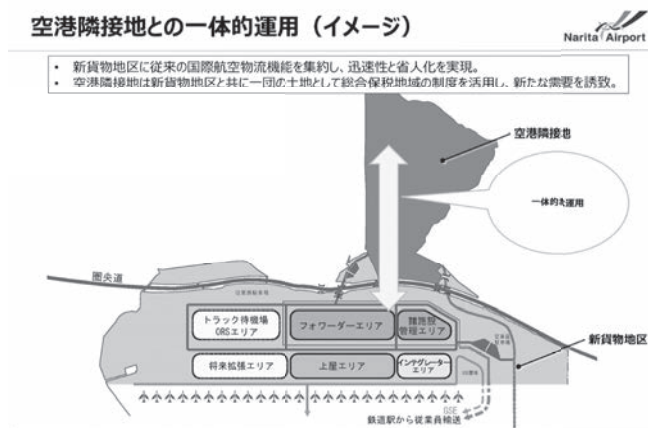
(国際業務委員会／国際宅配便委員会)

JAFAセミナー「新しい成田空港」構想とりまとめ2.0について

10月28日(月)、政策委員会と空港対策委員会の共催により、「新しい成田空港」構想とりまとめ2.0についてのセミナーを開催しました。2023年8月に、「新しい成田空港」構想についてセミナーを開催しましたが、その後、構想検討会で取りまとめられた内容について成田国際空港(NAA)貨物営業部のご担当者様をお招きし解説いただきました。セミナールーム9名、オンライン参加99名、合計108名の方々にご参加をいただきました。今後、具体的な貨物ターミナルや、隣接地区の運営方法等が徐々に具体化していくことと思われますが、聴講者の皆さんも今後の進捗について強い関心を持たれていました。

(政策委員会・空港対策委員会)

空港隣接地との一体的運用(イメージ)



新規会員紹介



四国名鉄運輸株式会社(正会員)



四国名鉄運輸株式会社

[代表者] 長谷川 靖

[本 社] 〒791-8510 愛媛県松山市空港通四丁目5番5号

[電 話] 089-972-1231 [U R L] <https://koguma.shikokumeitetsu.co.jp>

[事業内容] 貨物自動車運送事業(一般、特別積み合わせ、軽貨物)、
貨物利用運送事業(トラック、鉄道、航空機、船舶)、倉庫業、通関業、自動車整備業 等

当社は1942年(昭和17年)愛媛県松山市で設立、名鉄運輸グループの一員として主力を四国内におき、グループスローガン「We're Koguma」のもと「Best One for Customer」四国No.1の輸送品質の実現と、安全の確保が最も重要な使命として、地域社会に貢献できる企業を目指しております。

事業内容はトラック輸送を主力に航空輸送、JRコンテナ輸送、倉庫事業、通関業など展開し、総合物流会社として様々なニーズに対応したロジスティクスサービスをご提供させて頂いております。

航空貨物の取扱いは1971年(昭和46年)に開始し、当初は地場の鮮魚をはじめ生鮮品の航空輸送を主に

展開して参りました。現在は四国の航空貨物の総代理店として各社とのネットワークを構築し、国内貨物から国際貨物に至るまで取り扱いの幅を広げております。

これからも更なる「こぐま品質」の確立により、グループ丸となって最高品質のロジスティクスサービスをお届けして参ります。

委員会等活動報告

10月	7日	保安委員会	航空保安規定改訂・航空保安計画変更認定について、他
	7～9日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催（東京 18名合格）
	10日	国際教育委員会	IATA ディプロマ試験セミナールーム開放について、他
	10日	JAFA-BIAC 共同研究会	第20回成田空港地区貨物施設見学会開催
	16日	国際教育委員会	CBTA 7.2 コース補講 国内危険物講習会17名受講
	17日	国内業務・教育委員会	羽田空港施設見学会の日程検討、 来年度国内基礎講習会のカリキュラム検討、他
	18日	保安委員会	第58回（東京）・第59回（大阪）航空保安教育訓練 実施
	22日・24日	国際教育委員会	IATA ディプロマ試験・基礎コース事前講習会開催（東京）
	27日	広報委員会	JAFA ニュース132号（秋号）発行
	28日	政策委員会・空港対策委員会	JAFA セミナー「新しい成田空港」構想とりまとめ2.0について 開催
	29日	通関業務・情報合同委員会	第24回 社会悪物品密輸防止キャンペーン講習会開催
	29～30日	国際教育委員会	秋季国際基礎講習会開催（2日間でオンラインを含む343名参加）
11月	5～8日	国際教育委員会	CBTA 7.1 イニシャルコース開催（東京・大阪 15名合格）
	11～14日	通関業務・情報合同委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催（東京・大阪 34名合格）
	13日	広報委員会	JAFA ニュース132号（秋号）最終編集会議、他
	18～20日	国際教育委員会	CBTA 7.3 リカレントコース開催（東京・大阪 16名合格）
	21日	国内業務・教育委員会	羽田空港施設見学会の事前視察、来年度国内基礎講習会の内容確定、他
	22日	保安委員会	第60回（東京）・第61回（福岡）航空保安教育訓練 実施
	25日	通関業務・情報合同委員会	国際基礎講習会実施報告、社会悪物品等密輸防止キャンペーン、 次年度活動方針と予算、他
	26日	国際教育委員会	CBTA 7.2 コースオンライン開催、国内危険物講習会114名受講
12月	29日	国際宅配便業務委員会	EC 事業者に対する啓発活動について、他
	2～4日	国際教育委員会	CBTA 7.1 イニシャルコース開催（東京 12名合格）
	3日	JAFA-BIAC 共同研究会	2025年賀詞交歓会最終打合せ、 2024年度成田空港地区施設見学会レビュー、他
	5日	国際業務委員会	モントリオール条約改定について、 IATA ONE Record Roadshow 開催について 他
	6日	保安委員会	航空貨物の保安対策の徹底及び強化について、他
	6日	国際交流委員会	2025年3月開催の FIATA HQ ミーティング参加について
	9日	国際教育委員会	2025年度活動方針について、 IATA ディプロマ試験セミナールーム開放について、他
	10日	広報委員会	2025年度活動方針と予算要求について、 JAFA ニュース133号（新年号）について、他
	11日	政策委員会	今年度の活動状況と2025年度活動方針予算、JAFA セミナー振り返り、 次回セミナー
	16日	空港対策委員会	JAFA セミナーレビュー、2025年度活動方針と予算編成について、他
	17～19日	国際教育委員会	IATA ディプロマ試験・基礎コース事前講習会開催（東京・大阪）



JAFA-BIAC 賀詞交歓会



航空貨物運送協会（JAFA）と国際航空貨物航空会社委員会（BIAC）共催による賀詞交歓会が1月10日（金）にシェラトン都ホテル東京で開催されました。JAFA 会員合計74社197名、BIAC 会員23社102名、プレス関係9社14名、総計313名のご参加となりました。

主催者を代表しJAFAの杉山会長の挨拶に始まり、両団体代表者9名による恒例の鏡割り、そしてBIAC木藤会長の乾杯のご発声へと続き、和やかな雰囲気包まれながら交歓会が執り行われ、最後はJAFA鳥居副会長によるご挨拶と航空物流業界の更なる発展を祈願した三本締めで締めくくられました。また、昨年につづき義援金の募集が行われ、合計18万9千円を、日本赤十字社を通じ、「令和6年能登半島地震災害」・「令和6年9月能登半島大雨災害」・「令和6年7月25日から的大雨災害」に寄付させていただきました。



杉山会長



鳥居副会長



乾杯の発声（BIAC 木藤会長）



歓談風景